

## HOT TOPICS

小田原城DKイベントに  
映像領域1年生が参加!

卒業生 倉本雷大さん初監督映画  
「思春期ごっこ」8月23日より公開!

「万国学生芸術展覧祭」に  
イラストレーション領域の学生が参加。

1年生企画の七夕ライブ、  
学年も領域も超えて盛り上がる!

北見隆教授の映画への思い、朝日新聞  
「私の描くグッとムービー」に掲載。

卒業生千葉奈央さんの読切り  
マンガが『月刊ドラゴンエイジ』  
9月号に掲載!

夏のオープンキャンパスは  
特別授業、ワークショップ也大盛況!

## 授業紹介

創造基礎

## 教員紹介

イラストレーション領域  
古屋亜見子講師

## 学生紹介

イラストレーション領域  
田地しのぶさん

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部

# NEWS LETTER

## 2014. 8月号

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます。



NewsLetter 2014年8月号 vol.47  
2014年8月31日発行

Editor 永田久美子、金澤英樹(本学職員)  
Art Director 渡邊哲意(本学准教授)、芦谷耕平(本学講師)  
Designer 小野寺真央(イラストレーション領域4年)  
松波恵(イラストレーション領域4年)  
有馬ゆずか(マンガ領域3年)  
高田佳奈(イラストレーション領域3年)  
中田亜花音(イラストレーション領域3年)



宝塚大学  
www.takara-univ.ac.jp

東京新宿キャンパス  
東京メディア・コンテンツ学部|大学院  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号  
TEL:03-3367-3411  
FAX:03-3367-6761  
E-Mail:tokyo@takara-univ.ac.jp



宝塚大学  
東京新宿  
キャンパス



表紙写真  
コスプレサークル





# デジタル掛け軸 小田原城DKイベントに 映像領域1年生が参加！

写真:黒岩龍一



写真:黒岩龍一



写真:黒岩龍一

**小田原城址公園**周辺で毎年開催される「第23回ちようちん夏まつり」。この特別企画として、小田原城の天守閣をキャンパスに見立てたデジタル掛け軸（DK）イベントが開催されました（7月26〜27日）。世界的なデジタルアーティスト長谷川章氏とともに全国各地でデジタル掛け軸を投影してきた本学の渡邊哲意准教授もディレクターとして演出を担当し、映像領域1年生の増田結衣さん（千葉県植草学園大学附属高等学校出身）が設営に参加しました。天守閣に幻想的に浮かび上がったきらびやかな映像に、5万人もの来場者から大きな歓声が上がっていました。

**増田さんに聞きました！**  
渡邊先生のDKの写真に見ていたら、「じゃあ来月の小田原城、手伝いにおいでよ」ということになりました。「見る」と「やる」とでは大違いでした。プロジェクト4台を載せるイントレ（足場）の組み立ては大変な力仕事で、これを天守閣の周辺6カ所に配置し終わるころにはヘトヘトに。でも世界的なアーティスト長谷川さんともお話しでき、お客様の「わあ！」「きれい！」という歓声を聞いたなら、それまでの苦労は全部吹き飛びました。またぜひやりたいです！

## 卒業生 倉本雷大さん 初監督映画

### 「思春期ごっこ」 8月23日より新宿武蔵野館ほか全国順次公開！

**本**学卒業生（1期生）の倉本雷大さんの初監督長編映画「思春期ごっこ」が、新宿武蔵野館ほかで8月23日よりロードショーされます。劇場公開に先立ち写真集「思春期ごっこ」（青山裕企撮影）やDVD「水色の楽園」も発売され、「映像翻訳コンテスト課題作品」に選ばれるなど、にわかに注目度が高まっています。



# 思春期ごっこ

未来穂香 青山美郷

逢沢りな(特別出演) 伊藤梨沙子 荻野可鈴 井之上史織  
本宮初芽 浅見姫香 タカオユキ 真山明大 川村ゆきえ

倉本雷大 監督作品 写真:青山裕企 脚本:マキタカズオミ 倉本雷大

**倉本監督に聞きました！**  
大学の講師だった監督の現場に呼ばれて勉強していた2012年春、懇意にしていた2012年春、懇意にしていたところ、「ぜひやりましょう！」ということに。ただ、マンガや小説の映画化作品が多い中、僕みたいな新人監督で役者も新人、脚本もオリジナルなので、資金繰りは苦労したようです。撮影スタッフは皆さん40〜50代のプロばかり。圧倒的に経験値の高い方々に多くの刺激をいただきながら、同時に自分のやりたいことをいかに通すかに注力しました。「女優が光る映画を撮りたい」と思っていたので、最初の試写をみんなで見ても、最初の試写をみんなで見ても、「あの役者さん、すごくよかったですね」と言われたときはうれしかったですね。  
30〜40代の男性がターゲットですが、ここに来て10代の女の子の間で話題になっているそう。彼女たちがどう反応するか、今とても楽しみにしています。



「思春期ごっこ」製作委員会

「思春期ごっこ」  
高校進学を控えた中学3年生の少女たちの繊細で多感な思春期の日々を描く青春ムービー。主演は未来穂香、青山美郷。  
スタッフ  
監督…倉本雷大  
製作…嶋田豪 岡本東郎  
プロデューサー…関野嗣 吉尾宗太  
脚本…マキタカズオミ、倉本雷大  
撮影…中澤正行 (USC)  
照明…野村久哉  
録音…伊藤裕規  
編集…藤田真一  
主題歌…音楽…みみめMIMI

# 思春期ごっこ



HOT TOPICS

- 授業紹介
- 教員紹介
- 学生紹介
- 今後の予定



「万国學生藝術展覽祭」にイラストレーション領域の学生が参加!

デザインフェスタが新たに開催する万国學生藝術展覽祭(通称「學展」)が、東京ビッグサイトにて開催されました(8月9～10日)。「學展」は「何かを学んでいる人」が、表現のジャンル・年齢・国籍を問わず、気軽に出展できるアートイベント。今回、本学イラストレーション領域の卒業生、4年生、1年生が参加。なかでも4年生4人で構成する「Story Teller」はこの學展を機に結成されたグループで、今後も活動していく予定です。



4年生のさいとうさん(左)と卒業生の渡邊千里さん(右)のブース



友人と出展する1年生の木村さん(右)



4年生のグループ、StoryTellerのブース

「Story Teller」メンバー小野寺真央さん聞きました!  
 私たちは、世界の童話をモチーフに「カワイイ」と「オトナっぽい」を織り交ぜ、雑貨等でさりげないお洒落を展開しています。「學展」では20代をターゲットに設定しましたが、親子連れのお母様や男性の方からも「カワイイ」という声をいただき、いい気づきがありました。周囲のブースでは同年代の出展者の個性的なイラスト作品が目にとまり、創作意欲を刺激されました。即売会特有のお客様との距離の近さで、リアルな感想が聞けて収穫大でした。

軽音楽部とコスプレサークルによる合同イベント「Beginning Summer Festival」が、7月28日夜、学内に賑やかに開催されました。  
 このイベントは、軽音楽部とコスプレサークルに新加入した1年生が、自分たちのライブ演奏やダンスパフォーマンスを初披露する場として企画しました。参加した1年生は、この日のために準備した思い思いの衣装でダンスを披露し、上級生顔負けのバンド演奏を繰り広げるなど、多くの学生の前で練習の成果を発揮していました。1年生以外の学生や大学院生の参加もあり、学年や領域の枠を超えて楽しく交流していました。

1年生企画の七夕ライブ、学年も領域も超えて盛り上がる!





# 夏のオープンキャンパスは特別授業、ワークショップ也大盛況!

7月27日、8月2日、8月23日、夏のオープンキャンパスが開催され、それぞれ100名を超える高校生が参加しました。午前中の特別授業に加え、今回は午後から各領域ならではのワークショップを企画。特別授業では、第一線で活躍する本校講師陣の話に聞き入る熱心な高校生の姿が見られました。またワークショップに参加した高校生からは「先生とたくさん話せて大学の雰囲気がよくわかった」「大学でモノづくりを続けたいと思った」といった声が寄せられ、大変好評でした。次回は9月23日。皆様のご参加をお待ちしています!

## 主な特別授業、ワークショップ、イベント

### マンガ領域

- ・ヒットマンガの作り方【漫画家編パート1】  
ゲスト：星野泰視氏
- ・キャラクターを作ろう
- ・マンガを仕上げてみよう

### イラストレーション領域

- ・物語の挿絵を描く
- ・プラバン制作(昆虫採集)
- ・UV 樹脂で星座アクセサリを作る

### ゲーム領域

- ・ゲーム業界ってどんなところ?
- ・触れる 3D くまモン スマホアプリの制作

### アニメーション領域

- ・プロのアニメーターに学ぶ!「ジョジョの奇妙な冒険」スタッフによるアニメキャラクター作画指導!
- ・アニメーションの原画を描こう!

### 映像領域

- ・「みんなが社会人になる頃の映像表現」の先取りレクチャー
- ・初心者大歓迎! 触って動く未来の映像を作ろう
- ・プロジェクションマッピング制作体験

### コンテンツデザイン領域

- ・ミュージシャンのプロモーションデザイン
- ・オリジナル缶バッジ制作
- ・様々なコンテンツのデザイン

### スペシャルイベント

- ・アーティストプロモーションとデザインー「町xツカ」のできるまでー
- ・これからの映像表現
- ・クリエイティブ業界で働くということ

北見隆教授の映画への思い、朝日新聞「私の描くグッとムービー」に掲載。

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定



7月25日付の朝日新聞夕刊「私の描くグッとムービー」に、北見隆教授のイラストとインタビュー記事が掲載されました。このコーナーは、絵を生業とする人に映画を1本選んでもらい、絵とインタビューで構成するもの。北見教授が選んだのは、叔母の家に遊びに行った7人の女子高生が次々に家に食べられていくファンタジーホラー映画、大林宣彦監督の「HOUSE」(1977年)でした。

北見教授に聞きました!  
イラストレーターとして独立した1976年当時、仕事がそうそう来るはずもなく、絵の方向性も定まらない時期に見て衝撃を受けたのが「HOUSE」でした。CM(コマーシャル)出身の大林監督のデビュー作だというのが期待して行ったら、これがもうめちゃくちゃな映画で(笑)。しかし監督のやりたいことをやりきった幸福感と、現場の楽しい空気が伝わってきて感激しました。仕事は楽しませてもらったこと、これを学びました。

千葉さんに聞きました!

大学2年のときに幽霊のマンガを描いたことがあり、今回は主人公に恋をする女の子が幽霊である必然性をさらに強くしたいと思いました。最近目にとまるマンガに幽霊ものが多かったこともあり、自分が好きのキャラクターになり、夏らしい作品に仕上がったのではないかな、と思っています。

本学卒業生である千葉奈央さん(ペンネーム:幸奈ふなさん)の読切りマンガ「わたしと霊愛しよ」が、『月刊ドラゴンエイジ』(富士見書房)9月号(8月9日発売)に掲載されました。7月号の「ワールド・スイッチ」、8月号の「ストーカー症候群」も好評とのこと、今後の活躍がますます期待されます。

卒業生 千葉奈央さんの読切りマンガが『月刊ドラゴンエイジ』9月号に掲載!





HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定



# 大好きなアーティストから 学べる幸せ

イラストレーション領域  
古屋亜見子 講師

日本にいる頃は自分は絵が下手だという意識がありました。アメリカでは絵をほめられました。そうして中1で日本に帰国。中学の美術の先生から「あなたは本当に下手ね」と言われ、絵だけは人から学ばない、と決めました。

帰国子女の常かもしれないが、個性を大切にできるアメリカの教育と正反対の日本の教育にギャップを感じて、いつも何に対しても冷めた学生だったように思います。群れるのが苦手、中学・高校と部活にも入らず、かといってクヨクヨするわけでもなく、淡々と過ごしていた気がします。

父の仕事の関係でオーストラリアのダーウィンで生まれ、3歳で日本へ。小3まで日本にいて、その後アメリカへ。中1までの4年間をシアトルで過ごしました。子ども時代の強烈な記憶は、アラス力旅行に行ったときに見た氷河の色。その独特の青みは「絵の具では決して再現できない色だなあ」と子ども心に驚きました。その後、ヨセミテ国立公園やグランドキャニオンを訪れる機会があり、そのたびに、自然の色、造形の美しさ、そのすべてに魅了されました。「自然には絶対になかない」という想いが根っこにあるせいか、私は葉っぱの緑も空の青も、自分の中から出てくる自分の色で表現しているように思います。

好きな絵を描く人の言葉は自然に入ってきた。跡見学園短期大学の生活芸術科では日本画を専攻し、伝統的な筆や刷毛、顔料について興味深く学びました。その後デザイン専門の学校に進み、本の表紙を描く仕事があることを知ります。私はなにより本好きだったので、次第に本の装画を専門に描く仕事になりました。卒業間近の頃、学校の先生から北見隆先生をご紹介いただき、その後4年間、アシスタントとして貴重な経験をしました。大好きな絵を描く北見先生の言葉は私の中に入ってきて、1年後に筆を持つたとき、とても丁寧に描けたのです。不思議な感覚でした。絵を描くことが好きな高校生が進路に迷っていたとしたら？この大学には私も含め、同じように絵を描くことが好きな人がたくさんいます。きっと刺激的だし、なにより楽しいと思いますよ。

★古屋亜見子講師プロフィール  
1970年オーストラリア生まれ。1990年跡見学園短期大学生活芸術科を卒業。1992年東京YMCAデザイン研究所デザイン科卒業。北見隆氏のアシスタントとして4年間師事。その後フリーランスとなり、書籍や雑誌の表紙絵を数多く手がける。



# モノづくりの純粹な

## 楽しさを味わって



創造基礎  
専門科目

受講学年：1年  
担当教員：北見隆、渡邊哲意、高田美苗、市野治美、芦谷耕平、古屋亜見子、上原愛弓

HOT TOPICS

授業紹介

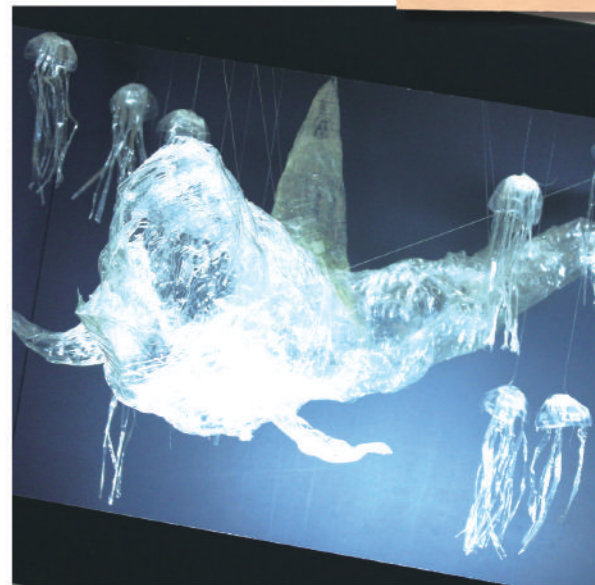
教員紹介

学生紹介

今後の予定



課題:新宿まち探検



課題:光と透明素材の水族館

この授業は、入学したばかりの1年生全員が領域の枠を超えて一緒に受けることとなります。創造や表現における根本的、総合的な演習としての新しい概念の基礎授業であり、この授業を通して、仲間とともに考え、表現する力を養っていきます。

今年1年生全員で水族館に見学に行き、海の生き物をスケッチして立体でとらえたあと、「光と透明素材の水族館」をテーマにグループ制作をしました。グループの中でさまざまなアイデアを出し合い、どう表現に落とし込んでいくか話し合い、役割分担を決め、制作していきます。2〜3週の時間で自分たちの作品をプレゼンテーションし合います。

この授業では領域を超えた学生同士のグループ制作を通して、チームでモノづくりに取り組むためのコミュニケーション能力を身に付け、また自分の目で見ると素材を発見する力、発見したことを伝える力を養っていきます。

最近の学生は、スマホなどの携帯端末で撮った写真や、インターネットで見つけた写真を見て絵を描き、描けたような気分になりがちです。しかしこれは平面画像をただ模写しているにすぎません。マンガやアニメーションなどは基本的に平面ですが、描く対象の多くは立体物です。立体を理解して描けないと、今後「違う角度から描いて」と言われたときに対応できなくなってしまう。つまり、立体物は構造で認識することが重要であり、この授業では最初に行う基礎演習として、立体を頭に入れる作業に力を入れるというわけです。

次の課題は、童話の登場人物の衣装をデザインして紙素材で制作し、学園祭でプレゼンテーションするというもの。学生たちも楽しみにしているようです。「創造基礎」で培った力をベースに、2年次からは各専門領域に移って行きます。だからこそ1年生の今、純粹にモノを創る楽しさ、絵を描く楽しさを味わってほしいと思います。

グルーブワークでこそ身につく表現力と伝える力

立体物を立体としてとらえる訓練が大切



HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

## オープンキャンパス



日時：9月23日(火・祝)  
13:00～16:00  
会場：宝塚大学 新宿キャンパス

主な内容：大学紹介、入試説明・相談、  
領域紹介、特別授業、ワークショップ、  
相談コーナー、在学生とのフリートーク、  
保護者相談会など

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

ここで得た宝物は  
コミュニケーション力。

イラストレーション領域4年生

田地しのぶさん  
(横浜商科大学高校出身)



少年マンガばかり  
読んで描いた子ども時代

小学校低学年から「名探偵コナン」や「犬夜叉」が好きで、よくマンガの表紙絵をなぞっては色づけして遊んでいました。なぜか少女マンガには一切興味がなく、小学校時代・中学時代は少年系の漫画ばかり読む女の子でした。

キャラクターとして好きだったのは「ドラえもん」。ドラちゃんばかりを描いた一冊のノートを友達に見せたら「絵がうまいね!」とほめられて妙にうれしかったのを覚えています。ドラちゃんへの愛はハンパではなく、今でも私の身の回りにたくさんいます(笑)。  
中学では「マンガ研究会」、高校では「児童文化研究会」という名の部活に入り、絵の好きな仲間が集まっては好きな絵を描いて集めた冊子を作っていました。でもそれをたくさんの人に見てもらってコミュニケーションすることはなく、自己満足にとどまっていた。高校生になって自分のホームページやブログで絵を少しずつ公開するようになり、人に感想をもらえる喜びを知りました。

消極的だった私を  
大学の環境が変えてくれた

私の大学選びはとてもシンプルでした。宝塚大学に進学した高校の部活の先輩が身近にいたので、オープンキャンパスで体験授業をし、先生方の印象や授業の力、ユラムも魅力的だったため、迷わずここに決めました。

今こそ友だちや先生から「信じられない」と言われますが、私は高校生までは消極的なタイプだったのです。しかし、この大学では有無を言わずグループ制作をすることにします。そのプロセスでは、学生同士で話し合ったり、問題解決するために先生に相談したりする機会が多くありました。それをくり返しながら、意見を主張し、人の話を聞き、自主的に動けるようになったような気がします。

幸運なことに、早い時点であるイベント制作・運営・企画会社に就職が決まりました。とても自由な空気で、ユニークな人がたくさんいる会社です。ここでたくさんの人脈を作り、コツコツお金も貯めて、30歳前後に友人たちと起業したいと考えています。  
絵を学ぼうとこの大学に入りま

したが、私は別の道に進みます。もちろんここでは絵についての勉強をするわけですが、同時に社会に出て必要な多くのことを吸収できます。私の場合、この大学で得た一番の財産は、コミュニケーション力だったと胸を張って言えますね。

